

平成 19 年 1 月 23 日 記者会見 会頭発言要旨

時事の話題

2008 年サミットに係る国の現地調査について

昨日、政府によるサミットの現地調査が京都で行われた。「美しい日本」を 21 世紀のヴィジョンとして掲げるならば、日本の本当の姿を世界の人々に知ってもらうには、京都をおいて他にはないと強くアピールした。感触としては十分手ごたえがあったと思う。今後も決定されるまで、できる限り、京都開催をアピールしていきたい。

京都市の景観条例について

京都市が昨年 11 月中旬に、新たな景観施策を打ち出した。広告業界や不動産、一部マンションに住んでいる方から、反対意見も出ているが、戦後 60 年かけて汚してきた街並みを、30 年、50 年かけて美しい街に戻していく必要があると思う。

今年の景気見通しについて

・追加利上げ見送りについて

中小企業の一部や業種では、利上げによる金利負担に対処しきれないところはまだ多い。利上げは日銀の専管事項なので任せるしかないが、福井総裁は、的確な利上げ時期を見極めていただけたらと思う。

・税制改正について

減価償却費の全額損金計上や留保金課税の撤廃、相続税制の改正など、本所をはじめ、全国各地の商工会議所が連携して要望活動を行ってきた項目が多く盛り込まれた内容となった。これらは、今後中小企業の基盤強化につながり、景気回復を更に磐石にすると歓迎したい。

ホワイトカラー・エグゼンプションについて

ホワイトカラー・エグゼンプション制度導入のための法案が見送られた。経済界から政府に要望してきただけに、残念に思う。本制度について、一部から「残業代ゼロ法案」などと誤解を招くような不適切な表現が広まってしまったが、本来は勤務時間による評価になじまない職務や、子育てなど家族と過ごす時間を増やしたいという社員の要望に応じるための法案と認識している。

以上